

13. 第 18–19 回高木レクチャーについて

第 18 回高木レクチャー (2016 年 11 月, 東京) の報告と第 19 回高木レクチャー (2017 年 7 月, 京都, RIMS) の予定をお知らせいたします。

高木貞治先生の名を冠した講演会「高木レクチャー」は、卓越した数学者を日本に招聘し、創造のインスピレーションを引き起こすような気概に満ちた研究総説講演を行っていただき、日本発の新たな数学の創造に寄与することを目的としています。講演は専門分野を越えた数学者や若手研究者・大学院生を主な対象として行われます。高木レクチャーをもとに書き下ろした研究総説は、査読を経て *Japanese Journal of Mathematics (JJM)* に掲載されることになっています。

この趣旨に基づき「高木レクチャー」の創設が 2006 年 3 月 26 日 (日)、日本数学会評議員会で承認され、2006 年 11 月に第 1 回高木レクチャーが京都大学数理解析研究所で開催されました。

10 周年を迎えた第 18 回高木レクチャーは、2016 年 11 月 5 日 (土) – 6 日 (日) に東京大学において、日本数学会と東京大学大学院数理解析科学研究所の主催で行われました。今回は 3 人の講演者をお招きし、

- Ngô Bảo Châu (Univ. of Chicago, 米国)
“On Geometry of Arc Spaces, the Hankel Transform and Function Equation of L -Functions”
(弧空間の幾何、ハンケル変換と L 関数の関数方程式)
- David Vogan (MIT, 米国)
“The Size of Infinite Dimensional Representations”
(無限次元表現の大きさ)
- Geordie Williamson (MPIM, ドイツ)
“On the Representation Theory of Algebraic Groups”
(代数群の表現論)

の題目で、1 時間×2 回の講演が行われました。当日には、予稿の「高木ブックレット」(iv+102 頁) が配布されました。参加者は

180 名を超え、週末にもかかわらず大盛況となりました。その最終版の研究総説論文は査読後、JJM に掲載される予定です。

講演のビデオは日本数学会情報システム運用委員会と東大数理 Video Archives プロジェクトチームにより撮影編集が行われ、web 上で一般公開する予定です。

第 19 回高木レクチャーは、
日時：2017 年 7 月 8 日 (土) – 9 日 (日)
場所：京都大学数理解析研究所
講演者：

Mark Braverman (Princeton Univ.)
Hugo Duminil-Copin (IHÉS)
Roger E. Howe (Yale Univ.)

主催：日本数学会
京都大学数理解析研究所
組織委員：小野薫，河東泰之，小林俊行，
齋藤毅，中島啓

の予定で開催いたします。

最新情報は高木レクチャーの HP

<http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~toshi/>

[takagi_jp/](http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~toshi/takagi_jp/)

をご覧ください。

JJM は、2006 年に廃刊の危機を乗り越え、3rd Series として「新しい創造を引き起こすような研究総説論文」を掲載するジャーナルとして生まれ変わりました。新生 JJM の 10 周年を迎えた昨年、トムソン・ロイターズは、対象ジャーナル全 312 誌中 JJM が 16 位のインパクトファクター (1.778) であると発表しました。

ジャーナルのホームページ

<http://www.springer.jp/JJM/>

では、最新の情報とともに、JJM 3rd Series に掲載された論文のアブストラクトの和訳も掲載しています。

2016 年度秋季総合分科会 (関西大学) では、日本数学会 70 周年、JJM 3rd Series 刊行 10 周年、高木レクチャー創設 10 周年を祝賀して、各号数部ずつではありましたが、JJM 創刊号から最新号 11 巻 2 号までを記念頒布しました。

(小林俊行 記)